

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成25年1月28日

施設名	高知県立歴史民俗資料館	所管課	文化・国際課
-----	-------------	-----	--------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県文化財団	指定期間	平成21年4月1日～平成26年3月31日
施設所在地	南国市岡豊町八幡1088-1		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県の歴史、考古及び民俗(以下「歴史民俗等」という。)に関する資料の収集、保管及び展示 ・歴史民俗等に関する専門的な調査研究 ・歴史民俗等に関する講演会、講習会、研究会等の教育普及活動 ・高知県における文化財の保存、活用の推進 ・上記のほか、歴史民俗資料館の設置の目的を達成するために必要な業務 		
施設内容	<p><建物> 延床面積4,527.47㎡ 鉄筋コンクリート造地上3階建 <土地> 124,520㎡ <主要施設> 常設展示室、企画展示室、体験学習室、AVホール、多目的室、収蔵庫、燻蒸室、研究室、会議室、資料室など <開館時間>午前9時～午後5時 <休館日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 常設展 一般450円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料 施設利用料 企画展示室23,470円(1日) AVホール14,990円</p>		
職員体制	特別職非常勤: 1人 常勤職員: 8人 契約職員: 9人 合計: 18人		

※職員数は平成23年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		平成22年度(決算)	平成23年度(決算)	平成24年度(予算)
収入	県支出金	185,694	124,584	132,100
	事業収入	32,263	8,051	6,000
	その他	13,819	10,557	5,341
	収入計(a)	231,776	143,192	143,441
支出	事業費	72,011	29,091	30,632
	管理運営費	146,258	110,935	112,809
	(うち人件費)	(93,621)	(61,867)	(41,888)
	その他	13,507	3,166	
	支出計(b)	231,776	143,192	143,441
収支差額(a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

		平成22年度(実績)	平成23年度(実績)	前年度比
年間利用者数(単位:人)	常設展	9,995人	2,418人	- 7,577人
	企画展	60,240人	30,828人	- 29,412人
	合計	70,235人	33,246人	- 36,989人
	<利用実績> 平成22年度は、リニューアルオープン効果、NHK大河ドラマ「龍馬伝」での記録的な来館者数を記録した。 平成23年度は、入館者数の目標を3万人とし、関係機関との連携による企画展の開催をするとともに、新しい切り口で取り組んだ「長宗我部元親ゆかりの地、土佐戦国七武将」をテーマとした歴史分野を活用した企画で集客努力を行った。			

4 県の要求水準に対する評価

要求水準1		評価	状況説明
資料センターとしての機能を果たし歴史文化を未来に伝える	高知県の歴史や文化に関する膨大な資料を適正に管理し、また調査研究の成果を公開することでこれまでの歴史の積み重ねのうえに現在の高知県があることを今に伝え、また未来へと引き継ぐ。	A	<ul style="list-style-type: none"> 資料収集は長期保存を念頭に置き、本県の歴史文化のうえで後世に伝えることが必要なものを対象とし、適切な保管に努めるため、平成21年度から継続して国の緊急雇用基金事業を利用して、収蔵資料を分類し、データ化する作業を進めている。 この作業の中で、歴史・考古・民俗の3分野に分類し、さらに資料の重要度(国宝・重文・指定等)による区分を行うことで、保存場所を選別することができるようになった。 この結果、第1収蔵庫に保管してきた民俗資料を外部保管所(旧大榎高校)へ移動することができ、収蔵庫環境が向上したほか、資料のデータ化が進んだ。 学芸員の日頃の活動が館の信用を築いており、新資料(長宗我部氏発給文書)の購入や、寄贈・寄託につながっている。 若い学芸員の育成、さらに地域での歴史熱が高まるような取組を期待したい。

要求水準2		評価	状況説明
高知県の歴史や文化を学ぶ拠点となる	展示や教育普及事業を充実させ、県民が、自ら生まれ育った高知県の歴史や文化を知るための拠点となる。	A	<ul style="list-style-type: none"> リニューアル後の総合展示室を大きく使った企画展の開催、資料の入れ替えや岡豊城跡解説ガイドの育成(12名)による長宗我部展示室の効果的な演出により観覧者から好評を得ることが出来た。 歴史講座や各企画展においての講座・講演会を6回開催し、延べ266人の受講があった。 ワクワクワークは20回開催し、延べ596人が参加し、体験型学習等は47校 2,463人が参加した。 普段当館に訪れる機会の少ない地域の学校(12校715人)を対象に派遣(出前)授業を行った。 展示室トークの開催 11回延べ182人 体験学習室の図書貸出しや専門書の貸出希望は多く、調査等の対応は97件、問い合わせ対応は185件であった。 派遣授業などの小中学生が学べる取り組みは一事業あたりの参加人数は少ないが、歴史への関心を持つ子ども達を育てるうえでとても良い企画なので一層の発展を期待する。 長宗我部の関連ゾーンを拡大した「土佐戦国七武将」の土佐戦国歴史ツアーが大好評で、定員オーバーの企画となった。(8回開催、延べ320人の参加) このツアー企画は当該地域の食文化の紹介にも役立っている。 長宗我部氏関係の資料館として、子どもたちも楽しめるイベントや企画展及びそのアピールについても一層充実させてほしい。 <p>○ 企画展・特別展</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別企画 勤王党結成150年記念企画 勤王党志士たちの遺墨・遺品展(4月1日～6月26日) 岡豊山フォトコンテスト共催企画 前田博史写真展 一心海(4月1日～4月3日) 特別展 おもちゃと模型のワンダーランド(7月8日～8月31日) 企画展 土佐を撮る 田辺寿男の民俗写真(9月10日～12月18日) 特別展 発掘された日本列島2011(1月2日～2月14日) 岡豊山フォトコンテスト共催企画 前田博史写真展 一然(3月24日～3月31日) <p>○ 講演会・講座</p> <ul style="list-style-type: none"> 土佐勤王党～尊皇から勤王へ～(5月14日) 民俗学会との共催シンポジウム(11月5日) 発掘された日本列島2011(1月14日) 東日本大震災と文化財レスキュー(1月28日) 東日本大震災における被災文化財等の救助・復旧活動(2月4日) フィルムから見えてくる田辺寿男の写真感(12月11日)

5 効率的な運営、サービスの向上、施設・設備の管理

運営・サービス・管理		評価	状況説明
効率的な運営、サービスの向上、施設、設備の管理に関する評価	適正な管理運営の確保	B	<p>○適正な管理運営の確保 条例、基本協定等、法令を遵守し個人情報の管理、情報公開の実施、修繕・委託業務の実施、危機管理対策等、適正な指定管理業務を行った。 特に、老朽化した施設対応については、限られた予算内で故障、不具合が生じた箇所を計画的に修繕し、対応している。</p> <p>○利用者サービスの維持向上 職員研修を実施し、アンケート調査によるニーズ把握や、日々寄せられる意見等を各職員で共有し、問題点や改善策を協議確認し改善に努めている。 バリアフリー化された施設は、利用者から大変好評を得ている。</p> <p>○利用実績 リニューアルを行い、NHK大河ドラマ「龍馬伝」効果の高かった前年度(70,235人)に比較し、利用者数は減少しているが、33,246人であり、平成21年度までの利用者数を上回っている。(H19～H21平均利用者数:約25,600人)</p> <p>○収支の状況 入場料による収入(6,139千円)は、平成22年度には及ばないが、平成19～21年度平均(4,658千円)を上回っている。支出では、空調システムの経年劣化によるトラブルにより予定外の修繕費用が発生したが、経費削減に努め、修繕費用を捻出した。</p>
	利用者サービスの維持向上		
	利用実績		
	収支の状況		

	評価	状況説明
総合	A	<p>・岡豊山の山頂に設置した望櫓から香長平野を眺望することで、長宗我部元親の心情に思いをはせていただくという事業は、大変良い取り組みであったと評価できる。史跡に存在する博物館として、戦国ロマンをかきたてる工夫を重ねて欲しい。</p> <p>・地元団体等と協力して様々な活動を行っており、表面に出る数字とは違う部分で地域に大きく貢献している。</p> <p>・他館との連携等による新しい切り口の企画展や、子どもを対象とした体験型事業などについて、一層の取り組みを期待したい。</p>

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの

この評価書は、外部の有識者等で構成する委員会を設置し、その意見をもとに評価を行ったものです。